

都市幼兒教育の問題 (三)

——或る講習會の速記——

倉 橋 惣 三

(五) 中の言葉

お互の——都會の——幼稚園或は低學年に参ります子供は、そこへ来る前に、都會生活の中にならぬ無理な目に遇つて居ります。そこを充分に理解し或は察してやり或は愛へ或は心配し考慮してやらなければなりません。早い話が、皆さんのお宅へ親類の子供が遊びに來ました時に、その子供が腹が空いて來たか、腹がはつて來たかといふことは、やさしいおばあさんのお氣を付けになる第一のここかと思ふ。たゞ自分のご馳走ぶりを見せたいといふだけのおばあさんならば、兎に角食べさせやうと思つてこれだけのご馳走を拵へたのであるから、食べてくれなければ私が困るを仰しやるが、子供の方では生憎今日は腹がはつて居れば、それは甚だ迷惑なご馳走でありませう。都會の子供が都會といふ文化過重の場所に於きまして、かう申しては云ひ過ぎるか知れませんが、食へるものでも、子供に不適當なもので腹が一ぱいになつて居る時に、又幼稚園の方で結構なものではありませんけれども、その上にもう一つ詰込むだけが深切な遣方でもなからうと思ふ。今日はおばあさんは御馳走しない。一つあなたの腹を空かしてあげるのがあなたに對する御馳走だといふのも宜しいでせう。かういふ御馳走なら非常に樂であつて、さうか腹の出來た方は私の處にお客にゐらつしやれば、幾らでも腹を空

かして差上げます。所謂向ふ本位にして考へる深切な扱ひとしては、さうも云へるのではなからうかと思ふ。

唯今もあちらで話が出たことでありましたが、皆様は都會の家庭から來ました子供を、さうもこんなことでは教育的にまる切り放任されて居つて困るまいので、その上にその上に良い教育を少しでも多く與へてやらうと御深切にお考へ下さる。これは眞にありがたいのでありますが、中々皆様が與へやうとお思ひになりますやうな結構なものを、子供達は満たされては居りませんが、決してうつつちやり放しにされて居るのではない。野原で牛や鳥と遊んで居りました子供とは違ひまして、自分の欲しくもない、ふさはしくないものを澤山に詰込まれて居る——詰込まれて居るまいふことはつまり空つぽで來て居るのではない、放任されて居るのではないことでもあります。そこでそれを一つ何かして腹を空かせること云ひますか、極端に云へば、その毒を取つてやること云ひますか、かう云つたやうなことは都會の幼稚園に於ては非常に考慮すべきことであらうと思ふ。かういふことが前申上げた要旨であつたのであります。

その點から考へてみまして、今日の都會幼稚園が幼稚園本來の意味として、保育はかうすべきものであるまいので、たと單にそれを完全に行ふまいふことでは濟まない。出来るだけきちんとして保育する方が宜いのでありませうけれども、併し已にきちんとして過ぎて居る子供には伸びやかな所を與へたい。色々筋肉も細かに發達させてやりたいのでありませうけれども、併し末梢神經の多く疲れて居ります子供のためには、體に一番缺けて居ります根本の筋肉の發達の方に考慮を拂はなければなるまい。かういふ所からしまして或は幼稚園に於ける遊戯と云つたやうなものを、出来るだけ細工で大きつぽで大掴みであることを必要とするまいやうなことも申上げた譯であります。

(六) 基本性情の涵養に關して

その意味から考へまして、次に幼児の基本性情の涵養といふ問題に入つて來るのでありますが、幼稚園令にも特に擧げてあります通りに、善良なる性情を涵養するといふことは、幼稚園の大きな任務であります。幼稚園の任務であるといふよりは、あの子供達を考へなくても、これは教育の任務となり得るものかと思ふ。一體人間を教育するにはどうしたらよからうかといふことを、相手を見ないで考へてみましても、善良なる性情を涵養したいといふことは誰も氣が付くことではありませんし、教育の目的といふものは、殊にさういふ行き方で掲げてある場合が多いのであります。商賣人が例へばご婦人のお召しになります洋服を拵へて置きます時に、かういふ良いものを皆に著せたいと思つて拵へて置く商賣人はなからうと思ふ。お客さまはそんなものを好むだらうかと思へて拵へますし、又自分の店に始終おいでになりますお客さまのこゝを考へて、あのお客さまにはかういふのが似合ふだらうか考へて着物を用意するかと思ふ。教育はそこまで相手を十分に考慮しない所が屢々ありまして、誰だらうが彼だらうが、善良なる性情を涵養するに悪いことはないぢやないか、その必要であるこゝは勿論ぢやないか、頭からぶつゝけてかゝつて居るような意味の言葉であるかと思ふ。あの言葉に反對する者は誰もありません。あの言葉が教育的に無用だといふことは誰も考へる者はないのであります。偕て都會の子供に對して善良なる性情を涵養しようとする時には、一體さう考へるのが行届いた思ひ遣りであらうかといふ所に行かなければ、たゞ教育の目的をぶつゝけるだけであつて、その人は教育するといふことにはならないか考へるのであります。殊に「善良ナル性情」といふ言葉の「善良」といふ字が甚だ曲者でありまして、私の如き多少子供といふものに馴れて居ります者から云へば、子供の世界に對して善良といふやうな言葉はうつかり使へないといふ氣持がするのであります。それはお前が少し不善良であるからそんな勝手なことを考へるのだらうか申されますれば、それだけのことでありますけれども、我が考へる善良といふものは大變なものであるかと思ふ。私が考へるだけでも善良といふことは大變でありますから、私よ

りも一層人格思想その他の教養に就いてお努めになつておいでになります皆様頭に響く善良いふものは實に大變なものであると思ふ。そこで善良いふ言葉をマキシムに解釋して子供に持つて行かうとしたならば、それは大變なものであると思ふ、着物を買つてやる場合に、子供であればこそ袖なしちゃんくも買つてやるのだと思ふ。善良なる着物はちやんとしたものが良いでせうけれども、その善良なる理想的の着物を買つて行つて、お前には似合ふまいけれども、三十、四十になれば丁度良くなるから買つてやつたさいふ人はないのであります。つまり善良いふ言葉を道徳的な意味に於て一ぱいに考へたさしますれば、これを幼児に持つて行くことは甚だむづかしいと思ふ。

さういふことをたゞ理窟で考へますのみならず、實際に於てかういふ風がありはしないかと思ふ。幼児を訓練する時の態度としては、善良なる性情を養はうとして居ります云へば、それで判を捺して置いても良い程分つて居ることであります、ある方は大變に高い理想をお持ちになりました、完全無缺の善良ささいふものを念頭に置いて、それを一ぱいに擴げて子供に持つて行かうとする方もあるかと思ふ。道徳的ヒステリーいふやうな人にはさういふものがある。(笑聲)特に保育熱心家には相當に道徳的ヒステリーがあります。私は決して道徳的に誇るに足るものではありませんが、ヒステリーでないこゝに於ては自ら任じて居ります。極めて健康でありまして、そんなに道徳のこゝを朝から晩まで氣にして居るようなヒステリーでないこゝは確かであります。併し訓練論、道徳論いふものを餘りお考へになるお方はさうお思ひになる。私は尋常一年の修身なごの教授を拜見して居りましたが、先生が道徳的高潮に達して、(笑聲)完全無缺なる理想の人間にならなければいかぬのである云つて、傍に聞いて居つてはらく／＼するこゝがあるのです。やがてはさうなるものでせうけれども、尋常一年や二年で理想的人間になつたら大變なこゝでありますし、恐らく一生かゝつてもさう理想的にならなくても、お互位の者にはなれるのではないか考へるのであります。

又もう一つのタイプの方は、別にそんなに興奮してお考へにはなりません、善良なる性情が人間が道徳的に正しくなるべきものだといふことに實に慣れつこになつてしまつて、極めて上の空で言つてゐらつしやる。悪いことをしてはいけませんよ、良いことをなさいよ、それは云ふにや及ぶ……(笑聲)いふやうなことをべら／＼仰しやる。人間が道徳的の生活に於て使ひます言葉位びつくりする程大きな言葉を使つて居ることはありません。孔子様にも常嵌らないことを鼻たらしにぎん／＼當嵌めようと思つておいでになります、これは自分が使つて居る言葉の中に自分がざれだけの實感を持つて居るかといふことを反省する人であつたならば、言葉の概念が正しいか正しくないかといふ形式的な反省でなく、生活としての實感をざれだけ入れてその言葉を使つて居るかといふことを反省する人であつたならば、實際きまりが悪くて使へたものではなからうと思ふやうな場合が随分多くあるのであります。さういふ意味からしまして、私は善良なる性情といふ言葉を反對は致しません……幼稚園の教育の目的は良い加減の所に置くべきだといふやうなことは決して申しませんけれども、實際問題として、若い學生などにはあの調子で話をして宜いと思ふが、子供のこゝに就いて苦勞して居りますお互としてはこのことも考へてみたいやうな氣がするのであります。

そこで、善良とは出来上つた後のことであるから、そんなことは後廻しにして置きまして、やがて善良になるであらう所の基本性情を養ひたいと綿密に書いた方が間違がないと思ふのであります。「善良ナル性情ヲ涵養シテ」といふ言葉はさういふ意味でありませう。幼稚園或は尋常一、二年の間に於て性情を完成させようといふことを云つて居るのでは決してないのでありませうけれども、先刻申しました二つの意味に於て、その誤謬が起り易い。そこで叮嚀に、やがて後に善良になるであらう所の基本性情を養ひたいといふ云ひ方をするが宜いと思ふ。

皆さんはそんなことはないかも知れませんが、皆さんのお召物を何處かに染返しにおやりになるこゝします。良い色に染め

てくれ云ひます時に、その染物屋の第一に考へますこゝは、今まで著いて居る色をさうして取らうかといふこゝであるのであります。その上にたゞ色をかけて行くのではない。さうして前の色を取らうかといふこゝである。染物屋が色を取るのであるから、反対の役目をして居るようであります。私は幼稚園に行きました子供が、都會生活の中でその位色々な純良でない所のものを持つて居るかも知れないと心配しました時に、先づそれを洗濯してやりたい氣があるのであります。幼稚園の入口に灰汁の桶でも置きまして、子供が來たら一々灰汁抜きをしてやりたい。この頃の幼稚園は實際灰汁が抜けて居りません。子供も灰汁たつぷり、先生も灰汁たつぷり、實に江ツ子がやつて居る幼稚園も云へないような灰汁抜けのしない幼稚園が澤山あります。教育といふものは一體灰汁の抜けない性質が非常に多いものであるが、その所謂灰汁を抜くこゝはあの純良な環境の中から來る子供には必要のないこゝであります。都會では随分大事なことではないかと思ふ。昨夜あなたはさうした？昨夜ね、頻りに隣りで蓄音器でジャズをかけてゐたのでそれを聞いて、私もそれを歌つてゐた。それからお母ちゃんも活動を見に行つて、エロ百パーセントの所を見て來た(笑聲)。子供にはよくは分りますまいけれども、何さなくさういふ飛ばちりを受けて居る。今朝來る途中でも色々な汚いものを見て幼稚園に來た。その時にそれを何さかして灰汁抜きをしたいと思ふのであります。さういふ意味からしまして、善良なる性情といふものをこちらに用意して置いて、善化の上に善化の上塗をする。顔も洗はないで、白粉を塗るさういふやうな下手な遣方をすべきであらうか。まあ、白粉を塗るこゝなきはゆつくりするこゝして、兎に角塵を拂つて上げませうと云つたこゝも一寸考慮すべきものではないかと考へるのであります。

この意味からしまして、幼稚園では出来るだけ餘り進み過ぎました性情を子供に持つて行きたくないと考へます。これは少し大きな問題になりますけれども、尋常一年の修身教科書なきも私はかなり大きなこゝが書いてあるような氣が致し

ます。それを又先生が大きく輪をかけてお話になるような恐れも時々感ずるのであります。

そこでその所謂善良の名に於て、きん／＼濃厚な性情教育を施した結果は、所謂道德上の早熟者といふものが出来ま
す。知識上の早熟も實に恐るべきであります。道德上の感情の上に於ける早熟位實に恐ろしいものはないと思ふのであ
ります。之を如何にしたらもう少しノセンスな状態に置くこゝが出来たらうかといふ所に私共は苦心したのであり
ます。皆さんは幼稚園でかういふ子供に澤山お遇ひにならうと思ふ。さうもこの子は何故こんなにませてゐるのだらう、
といふのが、感情的に殊に腕白でない亂暴でないおきなしい所謂善良さを持つて居るように見える子供の中にさういふの
がかなり多いこゝを始終お心付になるだらうと思ふ。之を善良でもなく悪でもない、所謂純なる生地の白いその儘のもの
に返してやるこゝは幼稚園に於ける大事な問題ではないかと思へるのであります。そこで私は幼稚園、低學年に於け
る訓練は、出来るだけ淡いこゝを以つて本體としたのであります。子供の生活の特色は淡いこゝに歸著するこゝ云つても
宜しい。我々の生活は淡くなくして濃くねつさりさしてあくさいものであります。それが上等に濃いものでも私は用心し
なければいかぬと思ふが、我々の生活はさすに濃いのであります。その濃ささ比べて、出来るだけ淡い所を子供に持た
してやりたいと思ふ。そこで私は田舎の子供が實に羨しくなります。野原に出て森を見て居ります。誰も道德を語りませ
ん。善良なれよ、なご／＼改まつたこゝは誰も言ひません。風がたゞ吹いて居ります。水がさら／＼流れてゐます。牛が
もう／＼啼いてゐます。小鳥がいよ／＼鳴いてゐます。その中にちつ／＼居りまして、あの淡さを一ぱいに持つて暮して居
ります。さういふ氣分に何さか我々が子供を扱つてやるこゝは出来まいかといふ問題になつて来る。淡いこゝであるから
私は十分に云ひ盡せない。かうしてかうして云ふなら強く云へるが、淡いのであるからさうも味はつて戴くより外に仕
方がない。方針をたゞそこに置いて戴きたいと思ふのであります。

之を更に言換へてみますと、感情生活が濃くなつて来るさいふのは一體さういふことであるか。感情は感情として濃くなつて来ることは良いことに相違ありません。冷淡水の如き感情よりは、感情として血の濃さが宜しいのであらうと思ひますが、私の云ふ、淡さを失はれて来るさいふのは、その感情を感情の開放しにして置かないで、それを一度搔廻してみたり、眺めてみたりするに濃くなつて来るを考へます。よく申すことでありますが、例へば林檎をひよつと切つた切口には、實に果物の一ぱいの味が、香が、色が、出て居ります。所がその切口は實に淡い。それを暫く放置するに、それが色色にもや／＼して來まして、しつこくなつて、甘味がべこ／＼して來たり、香が爛れる如くなつて來まして、艶も妙にこつてりして來たりする。感情さいふものが出たその儘で行過ぎてしまへばそれ切りであります、それを一度搔ね返したり眺めたりするにしつこくなつて來る。これは幼児にはないことでありませうが、若い人にあります。一種のセンチメンタリズムであります。私は餘りそんな目にも遇つたことはありませんが、私を非常に愛してくれる若い人があつたさします。その人の中にたゞ私を愛して居るだけで、愛して居るに感じてゐない人があつたに致します。さうするに實にさつぱりして居ります。その反對に私を愛してくれて居るに同時に、私を愛して居るさいふことを頻りに考へて居る人がある。さういふ人に遇つた時には、實にベシ付きます(笑聲)。私を愛するだけで愛して居ることに氣が付かぬ人は、私のために色色なことをしてくれませんが、それきりで、私がお禮を云はうと思ふ間に行つてしまふ。先日は色々さうも、なんて後で手紙でもやりますと、却つて嫌な人だと言はれる位であります。所が愛して居ることを自分で氣が付いて居る人は、私に好意を持つて色々なことをしてくれながら、頻りに念を押します。私の愛が通ひますか(笑聲)。愛して居ることを汲んでくださるか。水を召上れさいふから、飲んだらそれでよさうなものだが、その水に含む私の愛が判るかと言はれるに、もう一度飲んでみなければならぬ(笑聲)。實にしつこいのであります。そこまで自分の愛が相手に應へるさいふことを求め

るのは、自分で自分の愛を氣にしてゐらつしやるからである。私はあなたを愛して居るこゝばかり考へてゐる胸が一ぱいだつたものですからつい行届きませんでした、なんて云ふ。胸なんか一ぱいにならなくても、さつきさやつてくれる方が良いのである(笑聲)。つまり感情こいふものは出しつばなしが宜しい。朝幼児が皆様の所に來まして、先生お早う、と言ひます。或は皆さんの所に來て飛付きます。その時は淡い純な感情そのまゝで宜しい。それを、あなたの愛はよく分る(笑聲)。はあこ抱きしめる。さういふ風なしつこい取扱をして居ります、子供がそのしつこさに於て感情生活をするようになる。それが實にむづかしいのである。子供がお早うこ飛付いて來た時に、知らぬ顔をして冷やかにつゝばねてはいけませんまい。子供が持つて居る淡さに於て子供の感情を受取るこゝがむづかしい。若し山の奥に行きましてその子供が私の所に飛付いて來て、なつかしさをうにするのは實に淡いものである。山の奥の子供は私がなつかしいのでせう。なつかしく思ひながら花なんかをいぢつて居る。或は指をしやぶつたりして居る。私をなつかしく思へばこそ私の傍を離れないで、向ふの方へ行つたり、向ふを向いてこつちを向いたり、妙な振りをして居る。さういふ時には私はそこへ行つて、お前の心に動いて居るものは私に映する感情であるこいふことを知らしてやつて、その儘育つてやりたいやうな氣がする。都會の子供は家を出る時からしつこい感情の中で、色々いぢくり廻されてやつて來たのであるから、幼稚園では少しさつぱりした方が宜しいと思ふ。但しこれは皆様を百パーセント信頼して申上げます。うつちやり離しにして、朝挨拶をしやうと思つたが、面倒臭いから知らぬ顔をして居やうこいふやうにならないように確信を以つて申上げて居る。

殊にお話には色々子供の感情に訴へたものがありますが、この扱ひが相當しつこいものであると思ふ。ある子供が、一寸外に出て見たらばつたが、そのばつたの脚が折れたからそれをそつこ置いて何處かに行つてしまつた、こいふお話になつたら宜いと思ふ。子供はそれ位のものである。けれどもそれには止まらないで、ある子供がばつたの脚の

折れてゐるのを見て、實に、非常に、真に、同情溢るゝ思ひになつて、あゝ可愛さうだと思ひました(笑聲)。そんなに子供は、あゝと思ふものではない。この所謂お話を上手にする時に私は聞いて居ります。あの方はあすこまで言はなくては濟まぬか知らぬが、幼児に取つては少し過度であると思ふこゝがあります。言ひ過ぎである。そこで先生が時々良い氣持になつて：：良い氣持ではないでせうが：：(笑聲)實に同情しました、なんて言ふ。子供はくすく笑つたりして居る。(笑聲)これではもう都會の子供に必要な分量を通り越して居る。云つて子供は決して無情ではないのである。寧ろ私はさうまで誇大しなくてはならない大人の感情が無情であるを解釋します。さうもウキスキーを半分以上やらなければきゆうつこ來ないといふ人は喉が少し變になつて居るのであつて、感情の鋭い人は水で相當感するのであらうと思ふ。

この席で申上げるのは適當かさうか知りませんが、皆さんと一緒に吹聴しても宜いかと思ひますが、亡くなりました巖谷さんの話といふものは實に感情のさら／＼して居るものでありまして、私は昔からあの人の話に氣を付けて居りますが、色々なこゝを云へば云へないこゝもないでせうが、何處までもセンチメンタルでないのである。さら／＼をやつてしまふ。桃太郎が征伐に行かうといふので、お婆さんが黍團子を拵へてくれた。それでは行つておいで、行つて來ます。出かけて行つた、みやつてしまふ。それがある方になります。彼うしろを振り返つて、婆さま行つて來ます。さか色々やります。それを巖谷さんはさつさ、行つて來ます。みやつてしまふ。それで途中で犬に遇つて團子を半分やつて、さ來いご、さつさやる。あれは巖谷さんの江ツ子氣象から出て居る所もありませうが、この話をして居る。巖谷さんと思ひ出すのであります。所が巖谷さんのお話は田舎に行くに喜ばれません。これは餘計な話であります。私は幼稚園の中の全體の感情を淡くしてやりたいと思ふ。

も一度念を押して申して置きますが、何も幼稚園の感情を冷淡にしるこゝにはありません。用心して感情に觸れて

行くのでありますが、それを淡くして、純真なものにして行きたいのであります。殊に幼稚園で歌ひます唱歌なども、歌の文句もさうでありませうが、節なごも感情の出てるない唱歌が良いと思ひます。殊にその感情の出てる唱歌を更に感情を籠めて歌ふやり方は、私はその意味から非常に賛成しません。殊に頻りに半音を持出して行く子供用の唱歌は實に賛成しません。近來の子供用の唱歌には私は非常な不満を持つて居ります。殊に都會の子供はセンチメンタルな歌を始終聞いて居ります。何ぞか太郎さいふ歌ひ手がありますが、あの人の聲は實に良いが、歌ひ出しから實にセンチメンタルで、控ねて控ねて控ね返した歌を聞きますと、私のような弱い心臓を持つて居る者は、心臓を目茶苦茶にされる。藤山一郎の、僕の春から僕の銀座へ云つてくる時に、かなりモダンなセンチメントが出て居ります。あんなものを都會の子供はラヂオや蓄音器で始終聞いて居ります。お母さんもそれを歌ふ。お母さんのは心臓がまつすぐになるような聲ですから良ければ（笑聲）、それにしても節廻しだけは控ねてゐる。さういふものを牛の啼聲だの豚の啼聲に比べるに、子供としては大變にセンチメントの世界に居る譯であります。リズムがさうのかうのさ仰しやいますけれども、リズムなごでも實に幼兒のリズムは兩垂ぼつゝり以上のリズムではない。ぼつん／＼、或は時計がちくたくする位の所にゐるのです。それをリズムを通り越して、春野にまで行くセンチメンタルな音楽は幼兒には禁物であると思ふ。所が先生がさなきだに半音の方に小唄式の歌を、幼稚園の庭に散る櫻、櫻散る、あゝ、さかいふのを聲にまかせておやりになる。ソーマツチは此の如きこゝを云ふのであらう。もう少し淡泊にしたいと思ふ。さつぱりかんこした歌をさつぱりかんこした節で、さつぱりかんこした節をさつぱりかんこした態度で、さつぱりかんこした幼兒のために牛の啼く聲でも御研究になつたら良いと思ふ。子供が來ましたらば、「モー」云つて、やるだけの大膽があつたら、非常に敬意を表する（笑聲）。出来るだけ感情をブリミチブな立場から見ても載きたいと考へるのであります。要するに、基本性情を涵養しますためには、その上にくつゝ

いて居りますあくさいものを取去らなければならぬさいふこを申上げたのであります。

之に關係して、然らば何故今日の幼稚園があの小さな子供を相手にして小唄のやうなものを頻りにやるか。これは兒童に對する所謂情操教育さいふ言葉が其をなして居るのであると思ふのであります。情操教育さいふ言葉は、御承知のやうに、數年前我が國に於て行はれた世界的に流行した言葉であります。この情操教育さいふ言葉は何故そんなに強く流行したか云へば、その前の教育が餘りに感情方面に就いて考慮しなかつた。主智主義云ひますか、實用主義云ひますか、さういふ風であつたので、それに對する反動としてセンチメントに關する教育が到る處に強く唱へられたのであります。けれども私はその前から始終主張して居つたのであります。情操教育さいふやうなものは、曩の「善良ナル性情」同じ論法でありまして、「情操へ向つて發達するであらう基礎教育」さいふこなら宜しい。既に情操を纏りの付いた生活なきは青年期に於て初まつて出來ます。その時分になれば、花が咲いてゐるのを見ても何心、何を見ても何心、であります。所謂情操の方に入つて來る。幼兒に情操さいふものがあつたら大變なこであります。情操さいふ言葉の解釋の仕方でさうにでもなりさうな話でありますけれども、少くも今日の心理學で定義して居ります情操さいふものは幼兒期なきには決してあるものではない。幼兒にありますものは情緒だけがあるこ私は解釋して居る。然もその情操さいふものは情操さいふものになつてしまへば實に乙なものがありまして、それが心理學的には何から出來るか云へば、矢張り情緒から出て來るのである。情緒が適當に養はれるこなくして、情操が適當に養はれるこはないのであります。情緒の正しき發達なくしては、情操の發達さいふこも考へられないのである。これは私は料理なきの例でもさうであると思ふ。大變おいしい結構な料理を戴きますこ、云ふに云はれない、何の味も云へない、何だか乙な味ですなき云ふだけあります。けれどもこの料理はさうしてお作りになりましたか云へば、別に變つたこはない。作つて一日寝かして置

いたさか、實はこの妙な所は腐りかけの所であつて、腐りかけの乙な點ミかいふ加減もありませうが、根本は最も良き甘味を入れてあり、最も良き辛味を入れてあり、最も良きだしを入れてあるこいふこみである。即ち簡單なる基本的味覺調味料に於て上等なものが使つてあるが故に、あの乙な味が出て來るのである。情操こいふものはその要素であります所の情緒の供給に待つこいふこみは明らかに云へるこみであると思ふ。然るに幼稚園に於て情操教育を大變に尊重して、小さな子供に、情操を養はなくてはいかぬ、藝術的情操がさうのこみ云つて居るが、私は情ないこみであると思ひます。六つや七つ以下の子供に藝術なんて云ふのは大變間違つて居るこみであります。児童藝術ミか大きな言葉をお使ひになりますけれども、児童藝術でも何でもありません。子供が一寸良いこみをしたりしてもこれを道徳ミ云ふから、一寸悪いこみをするミ罪惡になつてしまふのである。児童には道徳もない代りに、罪惡もないのである。藝術がない代りに、殺風景なこみもない。情操教育ミ云つてやつて居ります中に、一番肝心な情緒が何處で養はれるか。子供は幼稚園に來て困つて居るだらうと思ふ。先生は非常に豊かな情操の持主でゐらつしやる。第一顔が情操の顔をしてゐらつしやる(笑聲)。お話も實に情操的にして居りますし、お弾きになります音楽は情操豊かで、何でも情操でなければゐられないやうな刺戟を受けて居ります。子供は友達同志で話をして居ります。俺は砂糖をなめて來たんだが、かう澁い味ぢややり切れないね、けれどもこれは情操で行くのかねミ戸迷つて居る。子供はもう少し單純である。先生を離れて子供達の世界に行きますさほつこしにして、もう情操はいらないんだよ……(笑聲)。やあ、僕の先生の年は幾つだと思ふ、青春二十二、あの頃は情操だよ君、なんて子供が話をする。うちの先生は幾つだと思ふ？人生五十八、あの頃は情操でも入れなければひからびて仕方がない。僕なんか情操なんか入れなくなつて潤ひを澤山持つて居る。なんて云ふ。草花を見て情操なんて云ふこみもなし、ばつたを見て、あゝ暮れ行く秋哀れなり(笑聲)なんて云ふこみを思ふものではない。友達同志でも別にさう混入つた情操で

は附合はない。たゞ情緒である。面白いの珍しいの恐いの嬉しいの腹が立つの、こんな極めて單純な情緒で行きます。この極めて單純なる情緒で行つて居ります子供の世界を教育の方では、さん、お、取、上、げ、に、な、ら、な、い。或は皆様はかう仰しやるか知れませんが。教育といふものは藝術上高尚なものである。九谷の皿のやうなものであつて、情緒のやうな單純なものを盛るものではない。こつてりこした情操を盛上げるものである。生の粟はさんぶりに入れて置けば宜い。私のは練つて捏ねて甘いきんさんを入れるものであるといふやうな教育をよくお思ひになる人があるけれども、幼兒はあの情緒で生きて居ります。幼稚園は低學年よりはもう少し情緒の世界に入れたら宜いと思ふ。私は子供の繪雑誌なきにも始終氣を付けて居ります。太郎は次郎さんに喧嘩をしました。太郎さんは大變に腹が立ちました。さもありなんに云つたやうなこがもう少し欲しいと思ふ。太郎さんは花を見まして、いもも美觀を稱へて居ります(笑聲)。いふやうなこを養ふのはもつとすつと後で宜いと思ふ。即ち幼稚園でもう少し當り前の情緒をさんくく發揮さしてお遣りになるこは、基本性情の教養として大事なこかと思ふ。

例へばものが恐いいふこもさうでありますし、ものが嫌いふこもさうでありますし、腹が立つこも、強情を張るこも、又亂暴なこばかりでなく、情操に至らないテンダーネス即ち柔かさ、優し味いふやうなこも情緒の中に入ると思ひます。さういふものを大いに取扱ひたいと思ふ。皆さんの幼稚園では多分子供は情緒禁物であると思ひます。子供が來て泣きますこ、駄目、幼稚園で泣いては駄目、泣くなんか情緒である(笑聲)。喧嘩なんかしては駄目、喧嘩なんかは情緒である。そんな下等な情緒は往來でやりなさい。或は家でやつたらよからう。この教育の殿堂の中に於ては、もう少し高級な情操に生きて貰ひたいに仰しやいます。けれども私は、幼兒は腹が立つ年である。悲しい年である。おつかない年である。その情緒をさう取扱つてやらうかいふ工夫なしには、子供達の基本性情は育てられないものであ

るを考へます。何も幼稚園で喧嘩を奨励する必要はありません。泣くのを奨励する必要もありません。けれども喧嘩をしましたならば、その喧嘩を大いに尊重してやりたいと思ひます。それは良い按配に情緒が起つて居るを見てやりたいと思ひます。この時に情緒を教育しなければ、情緒の本當の訓練は出来ない。この情緒を研究して置かなければ、本當の情操には育てられないといふ論法に於てやりたいと思ふ。私共が青筋を立て、怒つて居りましたらば、君いゝ年をして怒るな、それは下等なこゝだよ、云つてくれたら折れてしまひます。けれども幼児が怒つたから云つて、何が恥すべきこゝであるか、何が下等なこゝであるか。私は寧ろぎんぐ怒らせたいと思ふ。子供が喧嘩をして居りますと、大抵の先生は仰しやる、(色々な仲裁の仕方がありますが、面倒臭くなります) そんなに怒つたりするものぢやありません、こゝを仰しやる。けれども腹が立つてゐるのをごうします。或はそれを更におつかぶせて先に置いてゐらつしやる。あなたは良い人間になりたいの、こゝを仰しやる。えゝ良い人間になりたい。それぢや怒るな、こゝを仰しやる。即ち道徳であの情緒をおつかぶせてしまふのであります。何故もう少し單純に、腹が立つて居りましたらば、腹が立つのは誰だ、怒れゝゝ云つて下さつてこそ幼稚園の先生ではないか私と思ふ。子供の怒るのを止めるならば、外に行つてやります。何故泣くのです。悲しいの、意氣地なし、戦争に行つて泣かない人もあるのに何です……(笑聲) なぎゝ云つてゐる人もある。皆が私を置き去りにして行つてしまつて何だか悲しい、その悲しんで居る所に行つて、つらいでせうねか、怒つてゐる人の所に行つて無理もないねか、悲しんで居る人の所に行つて辛いでせうねか云ふのは、下手な遣方であるこゝは申すまでもありません。私の所に來まして、私の氣持をその儘繰返して歸つて行く人もあります。私が何だか憂鬱であります、それは君憂鬱だね、憂鬱だね云つて歸つて行く人があります(笑聲)。後であの人は何しに來たのかと思ひます(笑聲)。そこで子供が怒つて居ります所に行つて、それはもう云はなくても私には分る。私はあなたの心を察する人間である。これでこそ私

は保母である……(笑聲)ミ吹聴なさらなくても宜いのであるから、そつミして置けば宜しい。幼稚園の子供が時々私の所に来てつねるようなことをする。私の組の先生は良い先生なんですけれども、私だつて一人でそつミ泣きたいことがあるのに、何時でもうるさくくつついて來やがる……(笑聲)折角裏の方へ行つて泣いてゐるのに、探し廻つて、泣いてゐるね、泣いてゐるにきまつてゐるのにそんなことを仰つしやる。この間家で泣いてゐたらば、お母さんがひよつミ見てすつミ行つてしまつた。あの時は嬉しかつた。邪魔をしてくれない。自分の情緒を情緒のまゝで置いてくれる。暫くしてから泣いてゐたのを氣が付かないようにお母さんが呼んでくれて、泣く感情は全く反對の愉快さの方にすつミ心が行つてしまつた。何だかお母さんが良い蓄音器をおかけになつた。それで私は其處へすつミ行つた。さうするミお母さんが、にこつミ笑つた。あの時お母さんが、さつきあなたは泣いてゐましたね、私大目にみて置いたの、今に直るだらうミ先を見越して見て居りました(笑聲)。かう云つてくれたらそれで蓋も實もない話でありますが、子供はそんなに一生泣いては居りません。五分ミは泣いて居りません。涙の量を物理學的に測定しても大抵見當は付きません。私は情緒をそつミ置いてくれるミ云つたやうなことは、随分大事なことではなからうかミ思ふ。田舎の子供はそつミ育てられて居ります。都會では怒つてゐるね、泣いてゐるね、それが實にうるさいから、情緒なんていふものはさつミ形付けて、踏付けて、押潰して居る。情操に對して情緒の差ミいつたやうなことはそんな所で云へるかミ考へます。

(七) 都市幼稚園の自然的施設

これは改めて申上げるまでもなく、皆様が御注意になつて居るこゝかミ思ふのであります。今更幼稚園の庭はどの位狭くなければいかぬ、山がなければいかぬ、池がなくてはいかぬ、外接園がなくてはいかぬミ云つた所で仕方がないのであ

りますが、一つあるものを遺縁を付けてやつて載きたいと思ふのであります。この夏大阪の極く繁華の土地の幼稚園の方がらつしやいまして、大變に嬉しさうに私に御相談になりました。幼稚園が庭を十五坪自由にすることが出来たが、それをさう取扱はうかといふ御相談である。私の幼稚園の庭は十五坪より少し廣い。その廣いのを御覽になつて、十五坪云ふのは云ひ出しかねたさか言つて居られましたけれども、あの土地で十五坪といふのは自分が持つてゐるのは大變なことであります。そこで私はその人に、あなたはさうしよと思つてゐらつしやるか云つた所が、實にかう申しては失禮ですけれども、丁度私が急に千五百圓も儲けたやうな氣持で、不斷始終不自由致して居るのですから何でも彼でも欲しい。自動車も買ひたし、邸宅も買ひたし、別荘も買ひたし、都合に依つたら汽車も買ひたし……(笑聲)といふことまで思ふ。その意味で窮窟の中に居つた人が十五坪得たのであるから、色々お考へになりました、それを私ちつと聞いて居つて、十五坪にそれが入りますか？何さか入れますよ仰しやるのですが、私は實に冷かしでなく、敬意を以つて笑つた。何さか入りませうが、子供は何處へ入ります(笑聲)。さあ、さういふ話であつた。

今日の都市幼稚園の庭園がその狭さを擴げようとしても、中々出来ませんまい。そんな無理なことを考へても仕方がないが、その庭を子供のためにさう使つて居るだらうかといふことに就いては、未だ考へる餘地があると思ふ。庭園を見に来る人などは大抵子供が歸つた後にやつて来て、なる程こんなものがありますね、行届いて居りますね、揃つて居りますね、云つて體をよちつて通れる位の間をくゞつて、随分色々なものがありますね云つてくれるようなのが宜いのであらうか。そこをもう少し考へたいと思ふのであります。殊にその庭園で自然を備へますためには、主として植物が役立つものであらうと思ふ。私は未だこの學校の庭を拜見して居りません。又唯今は何處の幼稚園の庭も私の眼の前に出て居りません。出たら云へなくなりますが(笑聲)。その所謂植物を庭の中に置く時に、これはまさか狭くて子供が歩けないように一

ばいに植ゑるようなこゝはないでせうが、主として日當りの良い端の方にお植ゑになりますが、このお植ゑになりましたものを見ますと、一々白い札が立つて居りまして、何でもない菊なら菊があるよ、「きく」を書いてある。本字では「菊」、ラテン語ではクリサンテマムと書いて、「菊科に屬す」とか、色々なこゝが書いてある。これから秋になりますよ、庭で咲いてゐるのを見ても屋内で咲いてゐるのを見ても、名前が書いてある。これは雲龍でございますの、これは雙懸崖でございますのよ云はれるよ、がっかりしてしまふ。菊作りの道樂のジレットタントの興味としては許すさしまして、自然美を加へようとして植ゑます一本一花の草や木にサイエンスを持つて來るよいふこゝは、私は非常に残念に思ふのであります。小學校を二つにはつきり分けて、生活の特色から尋常一、二年の低學年は高學年は全く別の世界に存在して居るまで私が信じて居りますよを許されるならば、矢張り低學年には幼稚園と同じような意味で、之にサイエンスを持つて來たくはない。たゞそれがネイチュアであつて欲しい。私の幼稚園の庭を造る時に色々な専門家に相談をしたのであります、その方はよいふ木をお植ゑになりますかよ私に聞きながら、まあ教材園として、讀本に出て來る位の植物は一通り植ゑて、併し澤山植ゑる譯には行かぬから、一つく代表的なものでも植ゑてはよ、その時にちらつて言つたので、私はようしてこんな違つた考を持つ人があるのだらうかと思つた。私は出來るだけそこを原つぱにしたかつた。森にしたかつた。讀本に出て來る草だから木だからいかぬよいふこゝはありませんけれども、何もさういふ風なこゝに執著しなかつた。のみならずそこには植物のサンプルのように色々なものがぞろぞろ並んで居るのでなくて、松は松よ一緒になりたいでせう、杉は杉よ、ひばはひばよ一緒にゐたいでせうから、さういふものをぐちやぐち混せて植ゑてあります。實際一定の所には一定の植物が生えて居ります。一本だけ生えてゐるのは滅多にないので、氣候や種子の關係で揃つて居りますから、その自然の姿で植ゑたいと思ふ。一本々々植ゑて、白い札を立て、目錄の上で何種ありますよいふやうなこゝ

は、都會の幼児に與へたい庭ぎは申しがたいのであります。

かういふ意味で、幼稚園の植物を出来るだけ自然的の感じを子供に與へるものであり、與へるやうな扱ひ方で行きたいと思ふ。これが草や木の珍しくない田舎の幼稚園でありましたら、私は教材園をはつきり造ります。田舎のそこらの草を植ゑて、自然美豊かなりいふことは餘計な話である。けれども都會ではサイエンスが缺けて居る前にネイチュアが缺けて居るのでありますから、出来るだけ自然的の感じを與へたいと思ふ。

皆様が日曜日なきにピクニックにおいてになります。必ず子供のためにお土産として色々なものを取つておいでになるだらうと思ふ。中には折角草だの何だのありますのに、それを取つて來ないで、人造的に造つたものなきを買つておいでになります。都會の子供が何が欲しいだらうと思へてゐらつしやる方は、この一本の草でもき、取つておいでになるだらうと思ふ。その取つておいでになる時に、多くの方が上の方を切つて花を持つてお歸りになる。それも結構でございます。花は植物の代表である。顔が人間の代表であるが如く、久し振りでああなたにお目にかゝりまして嬉しうございませう。すこいふのは、顔を見たのであつて、久し振りでああなたのお目にかゝりましていふのはないのでありますから、花は植物の代表であるに相違ない。けれども花こいふものより、自然美の豊かな根であると思ひます。そこで私は田舎の草を持つてお歸りになる時に、何故根を持つておいでにならないかと思ふ。切つた花は切花屋に幾らもガラスの中にしてあります。都會にないものは植物の生きて居る根である。その土が著いた儘の根を持つて來て子供にやる。或は都會の子供は、土が著いてゐて汚い、花は綺麗だが根は汚いものだと思ふかも知れませんが、それ程自然こいふものから離れて居る子供達でありまして、その花を持つて來るのに對して根を持つて來るなきは、聊か極端な例を申し上げましたが、自然を本位にして植物を扱ひたいと思へるのであります。

唯今私の幼稚園には雑草が生えて居ります。私の幼稚園はおいで下されば自慢を致しますが、實に美しい庭でありまして、芝を入れ、色々な本を植ゑまして實に美的に出来て居ります。本當の幼稚園の庭になるには十年はかゝると思つて居るが、この夏休みの間に雑草が澤山生えまして、心なき學校當事者は之を屢々刈らうと思ひました。私は年々のこゝで、幼稚園の庭は草刈の手を入れません。それで頻りに色々なものが生えて居ります。その生えて居るので、やつこささこ都會の子供を九月初に招待する場所らしい感じが私に致して居ります。あれを踏んで居る中に枯れてしまふだらうと思ひますが、その雑草には花もあるのでせうけれども、粉末のやうな花ばかりで、或は莖が綺麗さいふ譯ではなし、何でもないが、觸つていゝのか悪いのかそんな窮屈な感じはなく、雑草だけは自分ののんきな世界にしてやつて居るのであります。何處の幼稚園もさう云つた雑草を植ゑる方が宜いと思ひますが、雑草味を加へたいと思ふのであります。皆さんも御苦心で、ごくワイルドな自然美を入れたいと思ひのこゝ考へられます。一昨々日でありましたが、ある地方の方が私の所にゐらつしやいまして、面白いものを持つて來て見せてくれた。色の著いた砂で砂繪さいふものを畫きますが、あのやうに、木の葉の粉で繪を畫くこゝを發明しまして、長い間の研究の後で私の所に持つて來てくれた。私は幼稚園で繪具を使ふよりも草の汁を使ひたいさいふこゝは豫てから思つて居つた。植物の汁を榨りますと、相當な色が出るこゝは御承知の通りであります。或は東京の真中で育つて、東京の真中の幼稚園の保母になつて居る方は御存知ない人があるかも知れませんが、草の汁さいふものは仲々面白いものである。これは草の葉を乾かしまして、摺臼でひいて粉にして作つたものであります。見本が澤山入つて居りましたが、實に千差萬別、良い色があるのであります。梧桐の葉は實に青い。青豆の葉も青い。黄色いのもあります。五色だの七色だのさいふサイエンスで著けたものこゝは全く違つた何こゝも云へない良い色が出てゐる。その人がやりますのは、色を著けようとする所に糊を塗つて、その粉をかけますと、それが著

いて綺麗な繪が出來ます。私はそれに木葉繪具の名前を付けて置きました。私はそれをお獎めする譯ではありませんが、それが發明されたのは田舎であるが、都會ではないかと思へる。更に皆様が皆様の幼稚園へ田舎の野のものを取入れて來ることに就いて色々お骨折を願ひたい。但しこれは電話でご注文になりました、クレオンを持つて來てくれ、色紙を持つて來てくれ、云つたやうに簡単な譯には行きません。

大阪で自然物觀賞のことに非常に骨を折りました方がありますが、暫くそれを熱心にやつて居りました所が、全國から色々なものが來ます。私がそこに行くに、小包の俵が著いて居る。開けて見ますと、松ぼつくりが澤山入つてゐた。「拾ひ集めて御送申上候」「私の庭に藤豆澤山之有、御送申上候」私の庭に何の彼の、色々なものが澤山集つて居ります。都會では不自由であるけれども、一寸連絡を付けて置きますと、幾らでも來ますので、中々面白く集めることが出來ます。人の作つたものか、銀座で買つて來たものか、いふ外に、自然物を皆様の幼稚園に入れることをして戴きたいと思ふのであります。

(八) 園外保育

自然物を幼稚園の中に入れることには切りがありません。乃ち無暗に入れることも出來ません。そこで外に連れて行くより外に仕方がないので、茲に園外保育の問題が出て來るのである。幼稚園は幼稚園の中で保育することだけではありません。皆様は皆様の幼稚園へ來て居る間だけの子供の先生ではないといふことをしつかりお考へを願ひたい。都會生活をして居ります哀れな子供の生活指導者であるとお考へを願ひたい。そこで幼稚園の中で教育します外に、さうしたならば之に自然味を與へるものが出來るかといふことに就いて色々工夫を願ひたい。皆様がお連れなされるのも結構、家の人

が連れて行きますようになりまます。要するに幼児の先達になりまして、幼児を田舎の方に連れて行くことを主體と考へるのであります。殊に神田、京橋、日本橋邊りの子供の多數は、一年の間に廣い野原を見るようなことも極めて少ないものが多いのではないかと思ふ。これは市役所の方にも十分御諒解を得まして、机の上でする保育は一日位休んでも宜しいから、さん／＼自然の方に子供を連れて行くのが宜いのではないかと思へます。

さういふ意味で都市幼稚園の子供のために圖りたいことがあるのでありますが、茲に少し違つた問題で、この機會に申して置きたいと思ひますことは、若しも幼稚園が都會の子供の生活的缺陷に對して考慮を拂つてゐないならば、兒童の心理だけは尊重し、教育の目的だけ考へて居りまして、あの雑踏せる都會の子供で、歸れば路地裏の日の當らない處に歸る子供だといふことを考慮しないで、たゞ教育を紋切型でやつて居りますならば、これは保育の時間が濟みましたならば、最小限度で歸るのが宜しいと思ふ。幼稚園の中で又都會生活の文化過重の上塗りをされることは、幼児のために氣の毒でありますから、所謂幼児教育の補遺的なことを一寸やりました、後はお疲れでせうと云つて歸してやつた方が宜いかと思ふ。けれども若しもその幼稚園が都會幼稚園の曩に私が申上げた意味を一ぱいに得さして、そこは伸びやかなる世界であり、そこは潤ひのある世界であり、そこはあくさい子供達よりも松ぼっくりが敷かれて居るような處であり、あの蕪窟な縁日の植木屋が賣つてゐるようなものでなくして、根がある雜草が置いてあると云つたやうな幼稚園でありましたらば、保育時數といふものに就いてはうん／＼お伸ばしになつて宜いかと考へるのであります。これは幼稚園の性質に依ることであつて、唯今申上げた通り、都會幼児にふさはしくない幼稚園であつたならば、早く歸した方が罪がない。けれどもその幼稚園が都會幼児のために考慮して施設してあつたならば、あの保育時數をきちん／＼守る必要はないと思ひます。

(九) 保育時數の問題

一體幼稚園の保育時數といふものは、何を根據にして出しましたが、別に根據はないのであります。我が國の法令の何處をお探しになりましたも、時數は二十五時間といふことは何處にも書いてありません。小學校令は全然違つて居ります。その保育時數といふものに就いては、何を根據にして考へるかといふに、その子供の家庭生活の缺陷に對して考慮するものであります。若しも良い家庭なら早く歸します。若しも悪い家庭なら……悪いといふことはないが、幼稚園の方が未だ良いといふならば、幼稚園に長く置けば宜いかと思ふ。

そこで私の願ひは非常に混合つて居ります。都市中心の場所に於きましては、恐らく幼稚園の方が未だ々々つゞき結構なことも澤山にあるだらうと思ひます。その都會幼兒の生活を救つてやる、補充してやるといふ意味から考へまして、少し保育時數を伸ばしてやつたらさうかと思へます。その保育時數を伸ばすに就きましては二つの問題が起る。伸ばした以上は又晝前からやつて来たような歌を歌ひ、繪を畫くといふのではありません。幼稚園の世界が實に都の生活を違つた、京に田舎ありき云つた、伸びやかな感じを與へる環境に置いてやれば宜しいのであります。その環境をすつゞ知らしてやるといふだけで、保育時數をもう少し伸ばしてやりたい氣がする。もう一つは實際問題として、保育時數を伸ばすといふは、皆伸ばさなければならぬと思ふか知れませんが、これは皆伸ばしても宜しいのでありませうが、實際はその子供に對して少しでもベターな施設をしてやりたいといふ深切から出るのでありますから、その幼稚園の先生の人數などを考慮に入れまして、幾人が宛、少しづつ、残しても宜いと思ふのであります。秋の中頃、歸れば暑苦しい西日が當つて居る。自動車の通りを歸つて行く子供のためには、せめて幾人が宛でも幼稚園に残るといふことは必要なことではないかと思へるの

であります。私は常にかういふこゝを申して居ります。その子供が家庭に歸つてお母さんが留守ならば、幼稚園は預つて置く方が宜からうと思ひます。お母さんが工場に行つてゐて五時に歸るのが明らであるのに、その子供を二時半にさつさゝ歸す先生は、随分その子を思つてゐない方であると思ひます。あなたは家へ歸つてもお母さんはゐないでせう、哀れなる子よ(笑聲)なんていふこゝは云はなくても宜しいが、それが分つてゐたならば、幼稚園に置いたら宜いぢやありませんか。又工場に行つて居る譯ではないが、この頃お母さんはお産で、赤十字病院に入つてゐてゐない。この頃家へ歸つても田舎のつんぼのおばあさんがゐるて何を云つてゐるのだから分らないといふやうなこゝがありましたならば、その間は幼稚園に置いてやる。叔母さんはさうではないかと思ふ。珍しく甥がきました、家ではかういふ譯だから歸つてもつまらないと云へば、今日は泊つておいでと云ふでせう。幼稚園はその深切で保育時數を延長して然るべきものであると申して居るのでありますが、今日の話はさういふ所に觸れるのでなくして、歸つた家の様子が幼稚園よりも一層都會的弊害の多い所であつたならば、せめて日がかげつて涼しくなるまで幼稚園に置いてやるといふやうなこゝは、都市幼稚園の任務ではなからうかと思へるのであります。私は時にかういふこゝを思ふ。その幾人か残された子供は、家庭生活から云へば不幸でありますけれども、幼稚園に於きましては多勢がやゝゝしてゐた時よりも實にしんみりした良い生活が出来る。學校では居残りといふこゝは情ないこゝでありますけれども(笑聲)、これは恵まれた居残りでありまして、先生は子供に言つておやりになる。或は心の中でお思ひになつたら宜い。朝からこんな靜かな生活をあなたに與へたいと思ふが、庭園の關係でがやゝゝして居つて、私もごちやゝゝして居つていけなかつた、これからしつこりませう。お庭にソファでも出してしつこりませう。びしよゝゝ濡れなくても宜しいが(笑聲)、さう云つた氣持で少し休ませておやりになるこゝは、都會幼稚園の大きな任務ではないかと思ふ。田舎幼稚園ならば、幼稚園なきに置くより、さつさゝ野原に連れて行つた方が宜い

が、ストリートよりは幼稚園の方が少しでも良いならば、そんな心掛を持ちたいと思ふのであります。

(十) 家庭への注意に就て及都市幼児教育者の教養に就いて

これは改めて申上げる程のこともないと思ひますが、さうか皆様が以上申上げたような精神で、幼稚園の一般任務でなくして、都會幼稚園さいふ特種任務をお考へになりまして、矢張りこの精神を以つて子供の親達にお話を願ひたいと思ひます。殊に失禮であります、最後の一項を申し上げますれば、皆様は單なる幼稚園教育者、低學年教育者であるだけでなくして、都會の子供達の傍に行く人であるとお考へになりました時に、その特種任務に對する特種教養さいふものが大いに必要であらうと思ふのであります。私は幼稚園の先生に對しては共通にお奨めするものを持つて居る。私の知つて居る方々の方に會ひますと何時でも直ぐ云ふものであります、この頃はあなた睡眠が足りて居りますか、さかう申します。いやさうもこの頃寢が足りませんさか、勉強ばかりして居るので睡眠時間が少いさか云つたら、私は寢ることを頻りに奨める。能く寢てゐない先生は、明日行つて子供さあの生命の中にいても自分を持つて行けません。我々は子供よりも餘計寢ます。子供は八時間で恢復するさうであります、私は十二、三時間寢なかつたら駄目であります。さうして子供よりもよく醒めた眼で以つて、そしてフレッシュな氣持で子供に向はなければならぬ。夜は遅くまで夜なべをして、半分寢ぼけて、少し頭が痛いさいふやうなこゝでは、實に幼児の傍へ行けるものではない。先生何だかお疲れのようですね、ミ子供に言はれる位恥かしいこゝはない。都會幼稚園らしくするために、先生がもう少し自然美を持つてゐて戴きたい。何も頭に草を載せてゐる必要はない。又は百姓のやうな恰好をする必要もないでせうけれども(笑聲)、心の中にネイチュアを入れて戴きたいと思ふ。そのためには休日なきには、銀座にのすかはりに(笑聲)、是非田舎においてなりました。

：別に花の所に行かなくても宜しい。それはそれは良かつたのよ、なんて云ふセンチメンタルになりますから、別に美でも何でも自然が美だなんて云ふのは餘程病的な話であります。皆さんも御覽になつたか知れませんが、私はこの間映畫を見ました。都會に育つた人が田舎の學校に奉職しまして、馬車に乗つて行く途中の話であります。それに乘つた先生は紐育あたりに育つた人で、ネイチュアは奇麗だを見てしまつて、途中にキャベツ畑があるを、それを見て、キャベヂ・イズ・ビウティフルと言つた。田舎の人がそれを聞いた所が、キャベヂがビウティフルだといふことは譯が分らない。キャベヂはキャベヂである。それでおつたまげて、くすくす笑つた。キャベヂが奇麗だを、云つてゐる一幕がありました。私は田舎に行きまして、大根を見て、眞に清らかなる白き大根よ……(笑聲)なんて云へば、それを聞いた百姓はびつくりして、大根は白えささ、なんて云ひます。自然が美しいふことは情操で美を見てゐるからで、そんな美はない。何でも宜しいから田舎に行きまして、草が生えてゐる處で、赤土が出てゐる處で、子供にお相手を願つたら宜いかと思ふ。それでも足りませんならば、皆様は色々お讀みになることが多いと思ひますが、皆様には非お奨めしたいことは、哲學もお讀みになりませう。人生論をお讀みになることもありませう。如何にして金を儲けるかといふこともお讀みになりませう(笑聲)。戀愛小説殊にお好きであらうと思ふ(笑聲)、皆様は乾燥無味な都會の子供の文化に對して、情緒縣々なる戀愛小説をお讀みになりまして、皆様は乾燥無味ではなく、非常に潤ひ多きハートでゐらつしやいませう(笑聲)。けれどもその潤ひは幼児にはふさはしくないものであつて、「あなた」なんて一寸變な情緒をお出しになりましたのでは幼稚園らしくない(笑聲)。そこで幼稚園の先生はあらゆる修養をなさいます外に、是非自然詩をお讀みになることをお奨めします。俳句でも、日本の歌でも宜しうございます。英語でも佛蘭西語でも宜しうございます。所謂都會文藝でなくして、田園文藝。或は人間さいふものを歌ひ抜いた詩でなくして、そんな偉いハートの歌を詠むのも宜いが、同時に草が生えて居る、蝶々が

飛んでゐるこいふやうな歌を詠みまして、少しは心の中にネイチユアの戦き、ネイチユアの震へるやうなものをお野へになりまして、子供の所においてになつて、その詩の力で、子供と一緒に雑草をご覧願ひたい。それでつばめをご覧願ひたい。その眼で空を見て戴きたい。哲學ばかり讀んでゐらつしやる方は、子供と一緒に空を見て、高し、あゝ、無限……(笑聲)云つたやうなこばかりを言ふ。飛んでゐるわね、雲、雲、云つただけで宜しい。風が吹いて來ます。秋の木の葉が散ります、あゝ、無情……(笑聲)こいふやうなこを仰しやらないで、何處まで飛んで行くのでせう、木の葉が、云へば、それがその儘詩になる。非常に深味のあるものでありますから、是非さういふものをお考へ願ひたいと思ふのであります。

色々申上げて居りますご際限がありませんから、これでお許しを得るごに致しますが、今回のお話は、私は保育の理論を申上げたではありません。況やその方法を申上げたのでありません。皆様と一緒に都會に居ります所から、あの子供達を何さかして都會にゐない子の幸福へ少しでも持つて行つてやりたいこいふ氣持だけをお聴取り願つたのであります。色々ご無禮ばかり申上げましたが、これで終るごに致します。